



豊國神社

秀

尾張國 中村里

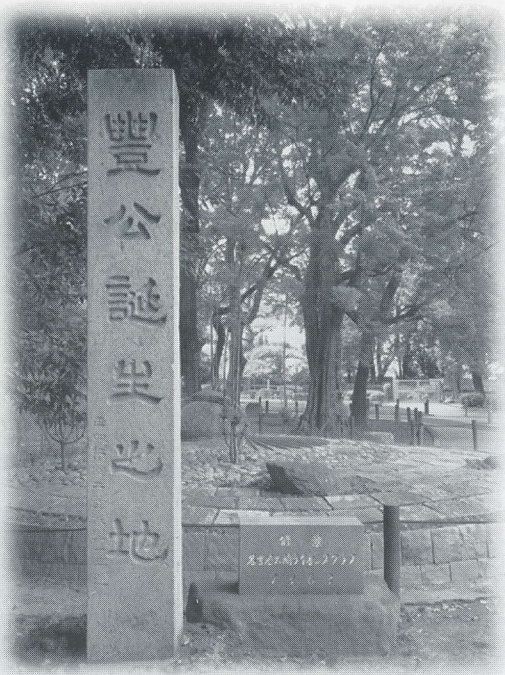
大鳥居

大正十年、中村区が名古屋市に編入されたのを記念して計画され、昭和四年六月十七日に起工、竣工は同年十一月三日で翌昭和五年の元旦に竣工式を執り行いました。鉄筋コンクリート製で全長約二十四・五メートル、柱直径二・五メートル。完成当時は日本最大の鳥居で、今までに二度程の修復や再塗装を経て現在に至ります。



豊國神社社務所

〒453-0053
名古屋市中村区中村町木下屋敷(中村公園内)
電話・FAX (052) 411-0003



豊臣秀吉公誕生之地

豊臣秀吉公は木下弥右衛門の子としてこの地に生まれた。幼名は「小竹」あるいは「日吉丸」。智子(関白秀次生母)は同父同母の姉。小一郎秀長(大和納言)と朝日姫(徳川家康正室)は異父同母の弟姉である。出生地については、区内下中村という説もある。

豊太閤付記

秀吉公は慶長三年(一五九八)八月十八日、京都伏見城で六十二年の生涯を終え、東山山麓の阿弥陀ヶ峰に埋葬された。翌、慶長四年には後陽成天皇より「豊国大明神」の神号と正一位の神階を与えられ、神として祀られる事になった。豊国大明神の呼び名は、その廟のある東豊国山に起因すると考えられている。関西方面では「ほうこくさん」、尾張中村においては「とよくにさん」と呼ばれ親しまれている。



豊國神社 (とよくにじんじや)

御祭神 豊臣秀吉公
摂社 加藤清正公

年中行事

元旦祭 一月一日
 生誕祭 旧正月一日
 献茶祭 例祭前日
 例祭 五月十八日直前の日曜日
 (大閤祭) 出世稚児行列—豊太閤に因んで子供の成長と出世を願う例祭日に行われます。
 月次祭 毎月十八日

略記

豊太閤はこの中村の地に天文六年元旦、日の出と共に御生誕になりました。明治十七年七月、時の県令国貞廉平氏及び地元崇敬者の人々が豊太閤の雄大なる御神徳を宣揚すべく神社の創建を計り、明治十八年八月に創建されました。中村が名古屋市となつてからは各区長も崇敬者、総代となつて神社の発展を助け、太閤祭等に協賛されていきました。戦後には、中村区を中心に崇敬者は全国に及び、出世開運、茶道、建設等の文化の神として親しまれ、毎日多くの方にご参拝頂いております。豊太閤の明るい御神徳をいただき、清く素直な心で日々の生活に感謝して、世の為、人の為に奉仕すると共に、大御心をいだいて睦み和らぎ、国の弥栄と共存共栄を祈り、家庭の幸福と日々の安全をお祈りしましょう。

大森町



摂社 清正公社

御祭神 加藤清正公

本殿の北東に祀られている清正公は、秀吉公の隨身、加藤清正公を御祭神に祀る。清正公は永禄五年(一五六二)の生まれ。母「伊都」は秀吉の母「なか」(後の大政所)の従姉妹と言われている。誕生した家は秀吉の隣家であったとの説もある。十五歳の時に秀吉公に仕官し、以降、秀吉公に従いながら武功を上げ、賤ヶ岳の戦いで勇将の地位を不動のものとした。生まれた時から秀吉公に縁が深かった清正公は終生秀吉公への厚い忠誠心を失わなかったという。